



政府が辺野古沿岸部での土砂投入を始めて3年となるのを前に、抗議に集まつた市民ら＝4日前、沖縄県名護市で

「私たちの意思 揺るがない」

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に反対する市民らは四日、政府が辺野古沿岸部での土砂投入を一〇一八年十一月に始めてから

十四日で三年となるのを前に、抗議集会「県民大行動」を開いた。工事現場に隣接する米軍キャンプ・シユワフのゲート前に八百人以上（主催者発表）が集まり「新基地を許すな」と訴えた。

玉城アニー知事が「私たちの意思は揺るがない。うちなーんちゅ（沖縄人）の誇りと自然への畏敬を持ち、団結しよう」と語ると、歓声が上がった。

初めて参加した那覇市の

大学院生酒井莉沙子さん（三〇）は「未来に基地を残さたくない。力強く訴える人が多く、驚いた」と話した。

黒塗りの街宣車が周囲を往復し「じゃまだ。帰れ」と叫び、一時騒然となつた。

県は一八年八月に埋め立て承認を撤回したが、国土交通相が裁決で撤回を取り消した。県は国を相手取つた訴訟で敗訴が続く。また政府は一〇年四月、予定海域で見つかった軟弱地盤の改良工事のため、設計変更を県に申請。玉城知事が今年十一月に不承認とした。